

2名の議員から2問の一般質問がありました。質問・答弁を抜粋・要約して掲載しました。

井戸水使用世帯の調査実施を 必要は無いと判断、水道加入促進に努める

【川村明雄議員】

当町では、80戸程度が生活用水に井戸水を使用しているようだが、昨年の胆振東部地震では、停電によりトイレの洗浄や臭気抜きができずに生活に難を来した声を聞く。

住民生活の観点や、本年、簡易水道に移行したが、給水戸数の減少などの実態から、水道水の普及対策を進めるためにも、井戸水使用世帯の定期的な水質検査・意向調査などが必要ではないか？
町長のお考えを伺います。



川村 明雄 議員



答弁する鳴海町長

【鳴海清春町長】

井戸水の水質検査は、設置者の自己責任により実施すべきものとされており、その指導は保健所等が行っている。町においては、健康管理の観点から、自主的な水質検査の注意喚起を進めたい。

井戸水から水道水への移行は、希望すれば容易にできる環境にあり、普及対策のアンケート調査は、必要性が無いと判断している。

少子高齢化が進む中で、水道の加入世帯も減少傾向にあり、将来的な財政見通しは厳しく、引き続き加入促進に努めてまいりたい。

第2青函トンネル実現に記念館の活用を PRを進め、提言団体連携・取組を加速

【平沼昌平議員】

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構を訪問し、構想実現に向けた支援要請等の意見交換をしてきたと行政報告で述べていたが、会の設立以降、町民気運の盛り上がりが出てきている気がする。

青函トンネル記念館を情報発信の場として、機運を高める必要性や記念館の施設整備、広告看板、パンフレット等により話題性を広げることにも必要と思うが、考えと方向性を伺う。

【鳴海清春町長】

私も議員同様、青函トンネル記念館が有効な情報発信基地の場所としてとらえ、PR用看板等の設置やパンフレットの作成に向けた準備作業を進めているが、施設整備改修までの考え方は持っていない。

青函トンネル工事完成後、相当時間も経過し、町民の世代交代が続く中で、町民の工事への思いが薄れているのも事実であり、構想実現に向けて町民の意識の醸成は欠かせない。

このため、町内団体などへの働きかけや関係者による講演会などを継続実施することでの自然発生的な機運の高まりを期待し、提言団体と連携し、取り組みを加速してまいりたい。



平沼 昌平 議員